



2024年 7月10日
第3号

JR東労組 Yokohama

JR東労組横浜地本

発行人 梶田 優一
編集 情宣担当
ホームページ

<http://www.jreu-yokohama1.jp/>



横浜地本第29回定期大会 (要旨) ①



確認された大会宣言

大会宣言 (※)

JR東労組横浜地本は7月7日、神奈川県民ホール大会議室にて第29回定期大会を開催し、スローガン及び運動方針のもと、全組合員で組織強化・拡大を実現していくことを満場一致で確認した。

私たちは2024JR総連春闘をたたかうにあたり、賃金が物価上昇に追い付かず、「融合と連携」の名の下、過去最高の働き度で苦勞している職場実態を会社に訴えるために「労働実態・生活実感を訴え24春闘要求を私たちからつくり出そう!」をスローガンに春闘メッセージ行動と、5年振りとなる横浜地本春闘集会をつくり出してきた。要求満額を勝ち取ることはできなかったものの、機関情報の活用と各機関の教訓的な実践をつくり上げてきた。そのたたかいによって、春闘期間中に2名の組織拡大を実現した。最大の教訓は、集まり、相互に指摘しあい、相互に高めあった組織的議論がなされたことだ。この教訓を我がものとして、更なる組織拡大を実現していこう。

6月8日、本部元副委員長の不祥事が発覚した。これは、組織強化・拡大、安全第一の再確立を最先頭で担うはずであった本部役員の組合員への背信行為である。しかし、横浜地本の情報伝達の遅さについての指摘があったことも踏まえ、今回の事象を反面教師とし、自らを律していかなければならない。また、相互指摘により不幸な組合員を二度と生み出さないために職場での議論をつくり出していく。

一方、事象を起こした社員に対する厳罰が行われ、現在の経営姿勢は恐怖支配・見せしめの職場管理となっていると発言があった。原因究明もされず、対策ならざる対策を打ち出す会社姿勢では事故は防げない。横浜地本は、事故・事象に対する原因究明に拘ってきた。何かあれば、早急に集まり「原因究明委員会」を各機関で開催してきた。4月26日、東海道線生見尾踏切での人身事故では、国府津運輸区分会と鎌倉車両センター分会が原因究明委員会を開催し、情報発信したことで問題が明るみとなり、会社も真摯に対応せざるを得なくなった。このことを教訓に、安全よりも運行優先・利益優先の会社姿勢を許さず、安全再確立のたたかいを推し進めよう。

会社の不適切な事象が相次いでいる。熱海運輸区におけるセクハラ・パワハラ、国府津車両センター茅ヶ崎派出におけるパワハラ転勤懲憑、川崎統括センターの現過半数代表者選出において、テンポラリースタッフを対象とした「安全研修」での脅迫・買収、JR東労組への誹謗中傷。そして、不正を打ち消そうとする欺瞞の信任投票。横浜地本のみならず、他地本でも2重処分や年休申請の隠蔽など、JR東労組を敵視した異常な職場管理が横行している。JR東労組組合員が関わっているから明るみになっているだけで、これは氷山の一角ではないか。恐怖支配によりモノ言えぬ社員づくりが行われ、安全よりも利益追求の経営姿勢が貫徹されてしまえば、JR西日本福知山線脱線事故以上の事故が発生しかねない。横浜地本は、会社姿勢を正すために緊急集会の開催や横地申の団体交渉を行ってきた。こうした会社の強硬姿勢に怒りをもった川崎統括センターの仲間がJR東労組に加入を決意した。「命と安全」を最大の価値基軸として、「安全・健康・ゆとり」のある職場をつくり出すために、組合員・未加入者と議論をして、JR東労組への結集を更に実現していこう。

岸田政権は台湾有事を理由に、南西諸島へのミサイル基地の新設、空港や港などを整備し、戦争する国へと着々と歩みを進めている。平和で安心して暮らせる社会を実現するために、横浜地本推薦議員等懇談会との連携や19日行動の参加などを通じて、共に行動していく仲間をつくり出し、未来を切り拓いていこう!

以上、宣言する。

2024年 7月 7日
東日本旅客鉄道労働組合
横浜地方本部第29回定期大会



長きにわたり先頭に立って
JR東労組運動を牽引!
地本や支部など各機関
役員を歴任されてきた

栗脇正裕さん

野原 茂さん

湯口博之さん

篠田徹雄さん

が受賞されました!
おめでとうございます!

野原 茂さん、湯口博之さん、篠田徹雄さん、栗脇正裕さん
組合表彰おめでとうございます!

先輩方が築き上げた経験・教訓を活かし
JR東労組強化のために奮闘していきます!
JR東労組横浜地方本部

仲間と共に「職場からの挑戦」で未来を切り拓こう!